登山月報

第9回山岳スキー競技日本選手権大会報告 ……1
アジアカップ第1戦 韓国大会 報告 ……2
平成25年度氷雪技術研修会、主任検定員養成講習会、
上級指導員養成講習会報告（鳥取県大山）…… 3
世界の登山教育と事故調査について ……4
全国トレラン大会調査報告 ……5
第66回 Mountain World ……7
みんな集まれ！なすかし雪遊び隊2014報告……8
【新連載】北から南から ブロック便り ……9
平成26年度競技部委員総会報告 …… 11
新刊図書紹介、ＪＭＡ、寄贈図書、編集後記　13

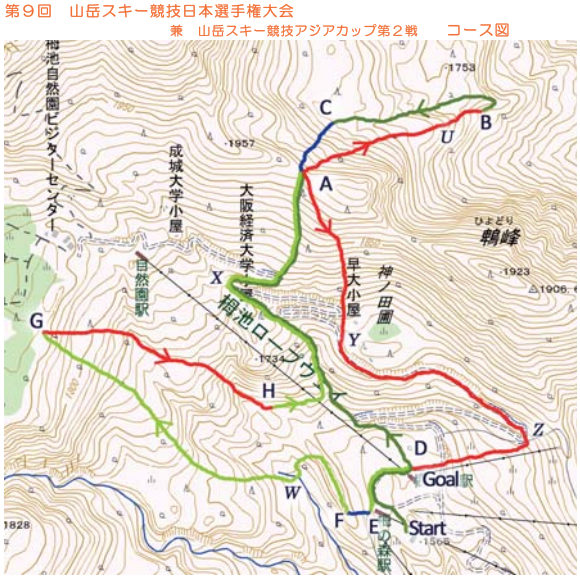
第9回山岳スキー競技日本選手権大会報告

４月５日、６日の週末、長野県栂池高原スキー場上部エリアを利用して、日本山岳協会主催、長野県山岳協会協力のもと、第９回山岳スキー競技日本選手権大会 兼2014アジアカップ第２戦が開催されました。韓国からの６名を含む55名がエントリー、53名の出走にて、水平距離12㎞、総標高差1300mのコースで競技が行われた。

５日は午後から受付と開会式。今回は神﨑会長が６日にしか来場いただけないとのことで本木顧問より開会の挨拶をいただいた。国内の山岳スキー競技発展のため、ますますの参加者増を目指してほしい、との励ましの言葉をいただいた。また開会式会場の後ろには協賛メーカー各社のブースが並び、この競技に適した用品は通常ショップでは入手しにくいため、参加選手たちもあれこれ手に取っては賑わっていた。

６日の競技当日は、前夜に降雪があり、競技時間中は回復するものの後に悪化するという天気予報であったが、朝の状況がそれほど悪くなかったため予定コースでの開催を決めた。予定通り９:30スタート。時折、風雪が強まり季節が逆戻りしたような寒さの中、５連覇中の藤川健選手が次第に後続を引き離して最後は独走状態で優勝。１時間51分の驚異的な速さを見せた。２位にはトレランでも活躍している小川壮太選手。３位は北海道の石橋恭選手。女子は韓国のベテランGwak Miheeが初優勝。初参加の大和田いつか選手が２位。地元長野の西田由香里選手が３位に入った。前日まで暖かい日が続いた後の荒天であったため、硬い融解凍結層の上に軽い新雪が載っており、シールを効かせにくいテクニカルな条件であったと言える。実際、レース中に登りのトレースからずり落ちて後続に抜かれるシーンが幾度か見受けられた。体力だけでなくスキー操作技術の差も結果に反映されたように感じた。

レース後はスキー場レストランの一角を借りて表彰式と閉会式が行われた。協賛メーカーよりいただいた協賛品により、参加者全員へ賞品が渡され、無事に大



カテゴリー１	スタート→誘導Ｘ→旗門Ａ→誘導Ｕ→旗門Ｂ→旗門Ｃ→旗門Ａ→誘導Ｙ→誘導Ｚ→旗門Ｄ→旗門Ｅ→旗門Ｆ→誘導Ｗ→旗門Ｇ→旗門Ｈ→誘導Ｘ→旗門Ａ→誘導Ｕ→旗門Ｂ→旗門Ｃ→旗門Ａ→誘導Ｙ→誘導Ｚ→ゴール
カテゴリー２	スタート→誘導Ｘ→旗門Ａ→誘導Ｕ→旗門Ｂ→旗門Ｃ→旗門Ａ→誘導Ｙ→誘導Ｚ→旗門Ｄ→旗門Ｅ→旗門Ｆ→誘導Ｗ→旗門Ｇ→旗門Ｈ→誘導Ｘ→旗門Ａ→誘導Ｙ→誘導Ｚ→ゴール

会を終えた。

９回目になる本大会だが、少しずつ参加者が増え、今年は50名を超えた。レース前日に行われた協賛メーカーであるディナフィットの体験イベントも50名以上の参加があり、少しずつこの競技が認知されてきたことを感じる。夏のトレラン人気を考えると、冬季の耐久レースともいえるこの競技は、もっと人気が出てもおかしくない競技だと思う。国際連盟は五輪種目化も狙っており、最終候補に残るまでの素地も出来ている。今後は国内の一般愛好家競技者を増やしていく努力をしていかなくてはならないと考えている。

毎年のことながら、レースを運営するために、旗門員、コース係員など多くのスタッフのお力をいただきました。特に今年は悪天のため、厳しい任務であったと思います。長山協をはじめ、各岳連からご参加いただいたスタッフの皆さまには頭の下がる思いです。また小谷村をはじめ、栂池スキー場やスキー学校、観光協会など、多くの方々にご協力をいただきましたことに改めてお礼を申し上げる次第です。（記　澤田　実）

山岳スキー競技　アジアカップ第１戦　韓国大会　報告

今年のアジアカップ第１戦は、２月22日～23日に昨年までの会場と違い同じ江原道ではあるが少し南にあるスキーリゾート[High one]で行われた。

昨年までは2018年冬季オリンピック会場の一部を利用し、スキー場のピステ以外の稜線や谷筋も使用していたが、今回は完全にスキー場をレースに使用した。

今年も、アジアカップ韓国大会５連勝の北海道の三浦選手と日本チャンピオンの同じく北海道の藤川選手の争いかと思っていたが、現地で参加選手リストを確認すると、外国からは、ロシアの選手監督が６名、イランが１名、中国が選手監督６名、日本が選手監督で９名の参加であった。イランの選手は昨年マナスルに登頂し7,500mからスキーで下ったと話していた。

22日夕方、一般のスキー客がいないところでバーチカルレースが行われ、男子は地元韓国勢とロシア勢が上位を占めた日本勢は５位、６位、９位、10位だった。

女子は伊藤さんが3位、中野さんが５位に入った。

23日ハイライトの競技が8時、男女同時に130人がスタート。ロシア勢と日本勢の争いになり男子はロシア選手が１位、三浦選手が２位、藤川選手が４位、伊藤選手が５位、岡田選手が９位に入った。女子は伊藤選手が４位、中野選手が６位でありそれぞれ表彰され景品が授与された。

とくに女子の優勝したロシア選手は圧倒的に強かったが、聞くところではクロカンのロシア・チャンピオンとのことだった。スキーの先をあげ、滑るというより走るような感じであった。冬季オリンピックを控え盛り上がっている韓国であったが、ソチ・オリンピックと同じような日程設定だったこともあって、大会の日程が二転三転し、早めにチケットを買った選手は大いに痛手を被った。日本を代表する選手達に何とか少しの補填ができないものか考えさせられた。

ロシアはヨーロッパの組織に入っているので三浦さんがアジアのチャンピオンであることに変わりがない。ともあれ立派なスキー場と豪華な宿舎を用意された主催国韓国に感謝するものです。

（国際常任委員　佐伯尚幸）

平成25年度氷雪技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会報告（鳥取県大山）

平成26年２月15日、16日に恒例となった鳥取県大山で「氷雪技術研修会」が開催された。参加者は研修５人、主任検定Ａ級４人、上級指導員養成１人、日山協より永井、堤、野村の３人、現地スタッフ４人で17名での開催となった。当日、首都圏では異例の積雪だったが、大山は例年通りの積雪で、宿舎の近くでもたっぷり雪があった。

参加者の代表の感想文と写真、また常任委員の堤さんよりスタンディング・アックス・ビレーの改良版の研修が実施されましたので、その図も合わせて、報告いたします。　（指導委員会　野村善弥）

氷雪技術研修会に参加して

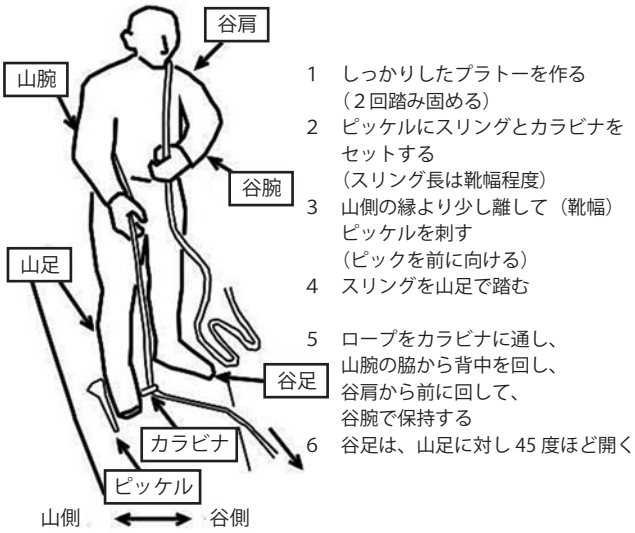
平成26年２月15日から16日にかけて、鳥取県大山で開催された「氷雪技術研修会」に参加し、多くのことを学ばせて頂きました。今回は特に、今まで様々な方法論が交錯していたスタンディング・アックス・ビレイ（ＳＡＢ）について、現時点での決定版といえる方法を、その中心と言える方々から直接に伝えて頂けるという稀な機会です。

ＳＡＢについては12年ほど前に会の先輩から教わり、その先輩とも各種方法を実地検証しながら、こだわりなく、自分たちが納得のいく方法を柔軟に取り入れてきました。しかし「最新技術」というものはどうなっているのか、会の誰もが興味あるところです。今回はそれを少人数に対して、堤講師からほぼマンツーマンで教わりました。方法としては劇的な変化ではなく、足の位置がより自然で無理がなく、また確保後の荷重移行もシンプルで、無理なくできるようになったと感じました。また確保方法以前に、プラトーの強度をとても重視している点にも注目です。しかし何より、堤講師が理論・動作・素材など細部に渡って、緻密に考えられていることに対し大きな刺激を受けました。話を聞いているうちに、技術というのは自分で工夫することで、ようやく身に付くようにも感じました。

さっそく３月には地元山岳協会と所属山岳会で伝達講習をしますが、おそらく「また変わったのか」と言われることでしょう。堤講師いわく、「登山技術は進歩する、道具だって次々に進化する。だから変わって当たり前。」だからこそ最新技術にアンテナを張る必要があるのでしょう。このような機会を与えていただいた皆様に対して、この場を借りてお礼申し上げます。

（鳥取県山岳協会　神庭　進）

SAB（スタンディング・アックス・ビレイ）の最新技術



世界の登山教育と事故調査について
―ＵＩＡＡ登山委員会　シャモニー会議―

４月４日から５日、シャモニーChamonix Le tourにおいて、フランス山岳会ＦＦＣＡＭの主催によるＵＩＡＡ登山委員会が開催された。この地はフランス国立スキー登山学校ＥＮＳＡが置かれる登山教育の中心地でもある。

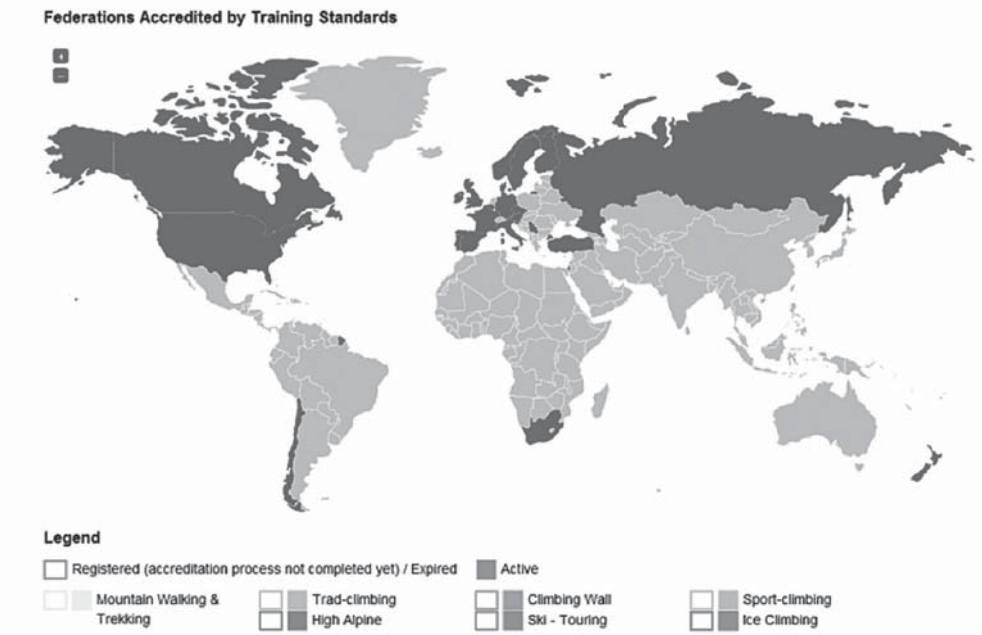
ピエールPierre委員長を中心に、標準化教育小委員会、法律専門ワーキンググループ、ペツル財団、など18人のメンバーが出席した。会議の主な内容は、日本に向けられた内容ではないが、ＵＩＡＡ委員会での活動状況を知って頂ければ幸いである。なお、委員会では名字で呼ばないため、ここでも習慣上、名前を用いた。

１．登山教育における世界の流れ

以前、来日講演されたSteve氏代表による標準化教育小委員会Training Standard Panel（ＴＳＰ）が開催された。様々な関係団体･関係国との折衝状況報告と、今後の展開などが話し合われた。特に、関心を引かれたのが、世界の白地図に描かれた標準化教育プログラム参加団体国の分布である。図より明らかなように世界の主な登山先進国が既に参加している。残念ではあるが、我が国は独自路線をひいている。

将来、日山協でもＵＩＡＡの資格認定団体に承認されると、日山協で、一般登山者を対象としたトレーニングならびに資格認定を行うことになる。ＵＩＡＡ資格認定といっても大げさな資格ではない。夏期のハイキング登山（含む縦走）から、冬期ハイキング登山、スポーツクライミング、ロッククライミング、アイスクライミング、アルパインクライミング、スキー登山の７種にコース分けされているため、各コース活動において、登山の基礎知識・能力を持っておれば、多くの人が取得可能であると考えている。と言うのも、ＵＩＡＡ独自のテキストで教えるのではなく、トレーニング法､資格認定法などを世界標準で統一することに、特徴を持たしているからである。当然、その国の独自技術は優先される。シラバス(指導計画、テキスト、評価)を作成し、共通テキストを作ることで、指導内容を統一する。至極､今日的な教育方法と思っている。

幸い、日山協においても、当グループへの参加を目指した登山教育への再編成を検討していると聞いてい



る。数年後、この世界地図にある日本の色を是非とも赤色にしたいと願っている。

２．足踏み状態の国際山岳事故データベース

私の担当する国際山岳事故データベースの構築は、前回、基本的な作業内容が承認された後、試行段階に入るや、様々な問題が持ち上がってきた。特に、この活動にペツル財団が興味を示し、活動資金援助の申し出の話が出たまでは良かったが、委員長の方針が大きく変わり、ＵＩＡＡとして、世界最高レベルの信頼精度を要望し、山岳連盟外団体との交渉を渋りだしてきたことである。このことは非常に大きな方針転換を意味した。

データ交換には、二つの方法がある。「これから事故アンケートを初めて行うグループCase-A」と、「既に事故データベースを持ち、その中から部分的にＵＩＡＡの事故調査項目と共通した項目データのみを抽出し、交換していくグループCase-B」を考えてきた。勿論、精度を重視すればCase-Bは難しくなる。世界的に見ても、Case-BはＩＫＡＲを中心としたレスキュー団体に多く、ＵＩＡＡ加盟団体には少ない。加えて、日本も調査項目に「緯度経度、目撃者の有無、年間登山回数」などを調査していないため、典型的なCase-Bに属する。高精度を目指すCase-A限定には同意し難いものがあった。主張がぶつかり合う中で、委員の意見を聞いて纏めていこうとしたが、さらに議論百出して何のことか分からないまま会議は終わってしまった。

一方、私が作成してきた事故データベースのデータ交換ための国際共同契約書Cooperative Agreementについて、イギリス判事から、ＵＩＡＡと連盟国や団体との間で、あるいはUIAAと非連盟国や団体との間で、最悪事項を想定した対応事項の挿入説明と関連質問があった。情けないが、正直何をどうせよと言われているのか分からなかった。ただひたすらにお願いして、私の作った共同契約書の修正をお願いした。

国、組織、人種、宗教、支持政党、利益集団、習慣などが異なる人々が参集し、国際的規模で、標準化した仕事をすることの難しさをつくづくと感じている。

最後に、来春（２０１５年４月前半ごろ）、当ＵＩＡＡ登山委員会が日本で開催されることになった。既に紹介してきた標準化教育ＴＳＰの専門家、法律専門家（判事、検事、弁護士、法律関係者）ＬＥＷＧ、倫理問題の専門家などが集まる予定である。遠い国だけに、どれだけの方が集まるのか分からないが、機会があれば、これを機会に新たな交流を初めて頂くことを期待している。　（記　青山千彰）

全国トレラン大会調査報告

最近、トレイルランニング（トレラン）が普及し、全国でトレランの大会が増えています。平成26年３月１日の朝日新聞夕刊の一面には、「走りたい山がある。トレランが人気」の見出しで、トレランという新しいスポーツが定着し、高尾山や奥多摩等が人気のフィールドになっている、と大きな記事になっています。トレラン人気に伴い一般登山者との軋轢や遭難騒ぎ、環境保全のあり方等の問題も発生しています。日山協としても新しい山岳スポーツに無関心ではいらないと、全国の都道府県岳連（協会）にアンケート調査を本年１月に依頼しました。各都道府県岳連（協会）からのアンケート結果が纏まりましたのでご報告いたします。

約24の大会の回答を纏めると、トレランの平均距離は約31km。他にもショートコース（平均距離14km）を併催している事例も多くあります。参加料金の平均は約6600円、ショートコース約3700円、参加人数は日本山岳耐久レース（ハセツネ）の2600名から100人前後の大会までまちまちです。主催者は、観光誘致が目的の市町村の観光協会や、山岳連盟やオリエンテーリング協会、トライアスロン連合等のスポーツ団体、また、実行委員会の組織やＮＰＯ法人等の団体が主催している例もあります。何らかの形で、地元の山岳団体が協力している例が多いようです。

一方で、山岳連盟が全く把握していない。全く関係していないという県も３例ありました。いずれにしても、これだけトレランが一般化してくると、山の自然を守り、山岳スポーツの発展を図る日山協としてはト

限定8名様　世界中のバックパッカーが憧れるJMTを歩く
ジョン・ミューア・トレイル・トレッキング
とヨセミテ国立公園滞在 8日間
発着地　東京
出発日／旅行代金
7/24(木)・・・・・¥598,000
8/29(金)・・・・・¥552,000
9/12(金)・・・・・¥538,000
※燃油サーチャージ（2014年4月20日現在：目安約50,000円）が別途必要です。
旅行企画・実施　観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員／ボンド保証会員
アルパイン ツアーサービス 株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階　☎03-3503-1911
大阪☎06-6444-3033　名古屋☎052-581-3211　福岡☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

レランを無視したり、目をつむることは出来ないのではないでしょうか。

また、最近ではＵＴＭＦ（ウルトラトレイル・マウント・フジ）、富士登山競走などの人気の大会になると、海外から多数の選手も参加するようになってきています。日本人の選手もレベルが上がり積極的に海外の大会に参加し、成績も上位を狙える方も多くなるなど、急速に国際化が進んでいます。それに伴い、このようなビッグレースでは、海外の大会とのアライアンスや交流も進み始めています。

このような状況を鑑みますと、我国で行われているトレラン大会は永年にわたり国体縦走競技を担ってきた日山協がリーダーシップを発揮し、選手登録や選手派遣の基準やルールのスタンダードづくり、選手強化の取り組みを始めなくてはならない時期に来ていると思います。2020年は東京オリンピックです。近い将来トレランがスポーツクライミングと共に山岳スポーツとしてオリンピックにエントリーされるかも知れません。そんな大きな夢を描きながら、トレランというスポーツを確立しなくてはならないのではないでしょうか。

また、トレランは登山と同じように自然という、かけがいのないフィールドを舞台とするスポーツです。環境に配慮しながらスポーツをするというのは今や常識となりました。多くの大会は、大会の前後にコース整備や清掃登山をしています。トレランもいわゆる山

ヤではなく、街のマラソンファンが自然のフィールドを走りたくて参加する例が増えています。このような人にも、山岳という自然のルールや環境保全のあり方を教える義務があると思います。一人でもルールを破るような人が出てくると、せっかく育ち始めたトレイル・スポーツが非難の的になってしまいます。このような山岳ビギナーに対して環境保護のありかた、レスキューの対応、安全ルールなどを指導できるのは日山協や各山岳連盟しかないと思います。トレイルランニング指導員やコーチの創設も急がねばなりません。

登山者とトレイルランナーが美しい自然の中でお互いに共存できるためにも、トレランという新しい山岳スポーツを発展させるためにも日山協の役割は重要なのではないでしょうか。

（記　競技部トレラン小委員会　宮地由文）

アンケート結果

大会名（略称）	開催県	主催者	開催日	距離①	距離②	参加費①	参加費②	参加者
ハセツネ30	東　京　都	日本山岳スポーツ協会	4月13日	30km	km	8,000円	円	2,000人
日本山岳耐久レース	東　京　都	日本山岳スポーツ協会	10月10日	72		15,000		2,600
鞍掛山トレラン	岩　手　県	岩手県山岳協会	7月21日	17	13	3,500		150
隠岐の島だいまじんトレラン	島　根　県	実行委員会	11月17日	18		3,000		60
さくらおろち湖トレイルラン	島　根　県	実行委員会	4月27日	24	13	6,000	3,000	500
Mt.MIZUHO CUP	島　根　県	実行委員会	9月8日	23	10	5,000	2,000/1,000	200
武田の森トレランレース	山　梨　県	甲府市観光協会ほか	12月8日	31		6,000		350
峰山トレランレース	神奈川県	実行委員会	3月23日	15		5,000		1,200
陣馬山トレイルレース	神奈川県	実行委員会	11月9日	24		7,000		1,600
東丹沢・宮ヶ瀬トレイルレース	神奈川県	実行委員会	4月20日	32		8,000		1,000
北丹沢12時間山岳耐久レース	神奈川県	実行委員会	7月7日	44		10,000		2,000
比婆山国際スカイライン	広　島　県	広島県山岳連盟	5月20日	19	9	5,000	5,000	1,000
安政遠足	群　馬　県	安政遠足保存会・安中市	5月11日	29	20	3,500	3,500	1,800
スパトレイル［四万ｔｏ草津］	群　馬　県	実行委員会	6月15日	80		15,000		1,000
千羽海崖コースタルトレイル	徳　島　県	実行委員会	1月19日	34	13	6,000	5,000	800
島田島耐久トレイルランニング	徳　島　県	ＮＰＯ法人	4月26日	4時間＋		3,500		
赤城山トレイルランニング	群　馬　県	実行委員会	5月18日	31	15	4,500	3,500	700
浅間スカイライン	長　野　県	浅間・高峰観光協会	10月5日	10		4,000		100
中能登町トレイルランニング	石　川　県	中能登町	11月5日	30		未定		80
白山ジオトレイル	石　川　県	実行委員会	9月14日	250		128,000		100
九州脊梁山脈トレイル	熊　本　県	実行委員会	9月28日	35		8,500		350
天草アルプストレラン	熊　本　県	実行委員会	3月16日	25		6,500		200
北海道トレイルランニング大会	北　海　道	実行委員会	9月21日	70～3.6K ６種		10,000～1,000 ６種		
Gokibiru Trail 30K	北　海　道	北海道トレイルランニングクラブ	10月26日	30	15	5,000		450

第66回 Mountain World

エヴェレスト雪崩遭難の波紋

池田常道

今春のエヴェレスト登山は、始まったばかりで早くも終わりを迎えてしまった。４月18日にクーンブ・アイスフォールで起きた雪崩で16人が死亡・行方不明になるという惨事となったため、シェルパたちが登山続行を拒否。手足を失ったかたちの登山隊が次々に撤退を決めたからだ。

この雪崩は朝6時半ごろ、西稜側壁の一角で起きたセラックの崩壊が引き金となり、おりから登高中だった約25人の隊列が5800m地点で襲われたもの。捜索活動の結果13人が遺体で発見・収容されたが、３人の行方が分からないまま20日に打ち切られた。ルートの固定ロープやハシゴが破壊されたため、すでにＣ１からウェスタン・クウムに上がっていた約100人が下山できなくなり、順次ヘリで救出された。行方不明を含めた犠牲者16人はすべてネパール人で、シェルパのほかタマン、グルンなど各部族にわたり、ベテランの高所シェルパからＡＢＣ要員までが含まれていた。犠牲者の所属先も、アルパインアッセントやアドヴェンチャーコンサルタントなど有力公募隊を含む7隊に及んだ。

親族や友人を失ったシェルパの間には動揺が走り、事態の収拾を図るため４日間の登山休止が決まり、さらに７日間に延長された。この間一部のシェルパたちは自宅に戻り、公募隊は休養したり付近の山で高所順応したりしたがＢＣの不満は治まらず、シェルパのリーダーたちがネパール政府に対して13項目の要求を突き付ける事態に発展した。表向きには待遇改善や権利獲得をうたっているが、その底には１年前のリンチ事件（昨年５月号本欄参照）で顕在化した階級闘争のにおいが漂っている。死者を悼む集会はアジテーションの場と化し、帰宅中のシェルパには登山隊に復帰しないよう脅迫まがいの説得も繰り返された。

主導したのは、マカルーなどクーンブ地域の外からきた若いシェルパである。幼・少年期をマオイストの影響の強かった地方で過ごした彼らは、エヴェレスト登山をボイコットすることで、眠っていた政治的要求を突き付ける機会を手にした。ネ政府の代表団がＢＣに派遣されて登山続行をうながしたものの効果はなかった。わずかに、断念する登山隊に今後５年間有効の登山許可を保証しただけだった。

ネ政府は毎年多額の登山料収入を得ているが、シェルパに還元される額はけっして多くない。さきの13項目には、分け前をよこせという要求も含まれている。長年有力公募隊で働いてきたクーンブのシェルパは１回の登山で装備代など込み6000米ドルを稼ぐ。彼らはそれを元手に茶店や民宿を経営し、カトマンズに店を出したりして家族を養う。一方、他の地方のシェルパにそんな機会はない。所属する公募隊が格安を売り物にしているから若いシェルパの取り分は800米ドルにとどまるうえに、副業で収入を得る道もない。

皮肉なことに、事故後のアイスフォールは、近年にないほど安定しているという報告がある。しかし、事態はもう後戻りできないところまで進んでしまった。では、今後のエヴェレスト登山はどうなるのか。

技術的な側面から言えば、アイスフォールの危険をいかに避けるかだ。アラスカのように、ウェスタン・クウムまでの人員・物資輸送をヘリで行ない、アイスフォールをスキップするというのがひとつの解決策だろう。数十人の隊列が危険地帯を行き来する危険は、かねてから予測されてきたからだ。輸送費がかさむとしても、不可能な話ではない。もうひとつは、さらに厄介だ。エヴェレスト登山の上がりをネ政府と外国人の公募隊が独占しているという不満が消えないからだ。最悪、ネパール人のガイド登山しか認めないという可能性も考えておかなければなるまい。エヴェレスト登山が金になることを、彼らは学んだのだ。ネパール人の公募隊が、効率的なエヴェレスト登山を継続できるかどうかは別問題ではあるが。

エヴェレストBCとアイスフォール、正面が西稜の肩。2014年４月２日撮影(thebmc.com)。

みんな集まれ！

なすかし雪遊び隊 2014

報告

「みんな集まれ！ なすかし雪遊び隊 2014」が３月26日(水) ～ 27日(木)にかけて、国立那須甲子青少年自然の家を会場として、栃木岳連、福島岳連の協力により開催された。

夏に立山で開催される「みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山」が概ね小学校４年生以上を対象にして開催しているのに対し、こちらは小学校低学年を対象として開催している。野外活動の体験を通して、①雪の残る春の自然とのふれあい、②共同生活による人とのふれあいの楽しさ、団体生活のルールを知る、③自分で考えて行動できるようにする、ことを目的としている。今年は、昨年に続いて第２回の開催だが、参加者募集にあたって当初は応募者が少なく、一時は中止も止むを得ないというような状況であったが、募集活動の結果、男子15名、女子2名の参加者があり、予定通りの開催となった。春休みの時期に合わせて計画したが、県によっては春休みに入っていないところもあり、参加者募集の目論見が外れてしまった結果でもあった。

集合場所の小金井特別支援学校前、新宿西口を経由して会場地に向かったが、首都高の渋滞により予定時刻より約１時間遅れて、11時半に青少年自然の家に到着。開校式、自己紹介の後、昼食を取り、午後の活動に入った。最初は、昨年もお世話になった福島県森の案内人の中野さんによる雪の中の自然観察を行った。講師の中野さんの巧妙な説明はわかりやすく、樹皮の模様からの木の見分け方や、雪の上の動物の足跡探しなどを行った。子供たちも興味を持って聞いていた。その後は、そり遊びに興じた。今年は昨年と打って変わり豊富な雪の中でのそり遊びで、スピードも出て競走に大いに盛り上がった。夕食後は「ふり返り」

の時間として、今日一日の出来事を各自でまとめ、感想を述べてもらったが、話の進まない子に年上の子が、面倒を見る姿も見られた。いよいよ待っていたプレイルームでのゲームは、スタッフとしてお願いした大学で教職課程を学ぶきょうこ先生、ななこ先生にリードしてもらい､班対抗の空き缶積みを行った。チームワークの必要なゲームで他のチームの様子を見ながら、作戦を立てて積むなど楽しんだ。他にじゃんけんゲームなども行ったが、子供たちには、やはり若いスタッフの協力が欠かせない。

２日目は朝の集い、ラジオ体操から始まったが、あいにくの雨のため、スノーシューでの雪遊びを変更し、館内オリエンテーリングを行った。写真をヒントにどこにあるか館内地図に場所を落とし込むゲームだが、制限時間内に探し出すのは結構難しく、他の班にわからないように調べるのもチームワークと作戦が必要なゲームだった。ゲームの終わるころは雨も小降りになり、スノーシューをはいてスキー場に向かい、時間がなく当初予定のスノードームは作れなかったが、昨年と違い豊富な雪で、子供たち希望の雪合戦を楽しんだ。雪だるまを作るグループもあり、雪遊びの思い出づくりとなった。昼食を済ませ、閉講式では、西内常務理事からの講評、本木顧問からの修了証授与を行い、なすかし雪遊び隊を終了した。

初めて顔を合わせた参加者同士だが、子供たちはすぐに打ち解け、仲間意識もでき、雪遊び隊の目的も概ね達成できたと考えている。短い時間の中で学校以外の仲間との団体生活で得たこと、自然とのふれあいの大切さをこれからも忘れずにいてほしいと思う。

（文責　仙石富英）

新連載

北から南から ブロック便り
東　海ブロック

●大杉谷登山道が10年ぶりに開通

平成16年９月の台風21号により、大杉谷峡谷は大規模崩壊で光滝下流の峡谷が埋まり、洪水により吊り橋が流され、登山道の通行が不可能となっていましたが、崩落地に登山道が整備され通行が可能となりました。４月25日（金）に大杉谷登山センターでオープニングセレモニーが開かれ10年ぶりに全面開通しました。

大杉谷峡谷は、黒部峡谷（富山県）、清津峡（新潟県）と共に日本三大峡谷といわれており、深い谷と数々の滝が連続する峡谷美が見事です。

オープニングに先立ち、４月17日（木）・18日（金）の２日間、大杉谷登山センターを始めとして、環境省、林野庁、三重県、大台町、大台警察署、奥伊勢消防組合、三重大学、三重県山岳連盟など22名が登山道のパトロールを行い安全性の確認を行いました。

１日目は宮川ダム宮川第３発電所の登山口から入山し、桃ノ木山の家までの6.2km、２日目は桃木山の家から日出ヶ岳（1,695ｍ）を経由して大台ヶ原駐車場まで10.5kmのパトロールを実施し、過去の事故発生現場の確認、ヘリでのピックアップ可能場所、登山道整備、倒木の伐採・撤去、吊り橋の安全確認などを行いました。

核心部の光滝下流の崩壊地は５ｍを超す大岩が峡谷を25mの高さまで埋めています。台風被害から10年の間、崩壊地岩を調査し、岩の安定性を確認して登山道が新しく整備されました。この崩壊地の迫力には圧倒されます。

千尋滝、ニコニコ滝、日本の滝百選の七ツ釜滝、光滝、隠滝、堂倉滝等の名瀑、大日嵩、シシ淵、平等嵩と崩壊地、数々の吊り橋、貴重な植物など見どころ満載の

大杉谷（シシ淵・ニコニコ滝）

峡谷です。多くの登山愛好家に来ていただき、大杉谷、大台ケ原の自然を満喫していただきたいと思います。

しかし、登山道は急峻な谷を流れる宮川沿いにつけられており、一歩足を踏み外せば数十メートルも滑落する場所が数々あります。年間総雨量が4,500mmを超える多雨地帯、雨の降り方は半端ではなく、一度大雨が降ると沢からの水が滝のように登山道を溢れて流れます。また、雨で濡れた岩は滑りやすく、過去にも事故が多発しています。一度事故が起きると重大事故（死亡・重傷）につながっています。くれぐれも安全登山でお願いしたと思います。

大杉谷（崩壊地）

■大杉谷登山道の情報は、
㈳大杉谷登山センターへお問い合わせください。
（公社）大杉谷登山センター
〒519-2634　三重県多気郡大台町大杉140-40
TEL：0598-78-3338　　http://www.oosugidani.jp

●春の安全登山・自然保護啓発活動を実施

鈴鹿山系連絡協議会として、春の安全登山・自然保護啓発活動を登山者が増加するゴールデンウィーク前の４月26日（土）の朝約３時間、三重県側８か所、滋賀県側１か所で行いました。

三重県側では、警察、消防、行政、三重県山岳連盟など70名が参加して藤原岳登山センター、竜ヶ岳（宇賀渓登山口）、朝明渓谷、御在所岳（裏道登山口・中道登山口）、御在所ロープウェイ山麓駅、鎌ヶ岳長石登山口、宮妻峡で実施しました。また、滋賀県側では県警、滋賀県山岳連盟、大阪府山岳連盟、甲賀山岳会など16名が武平峠（滋賀県側登山口）で実施しました。

（公社）日本山岳協会から提供していただいた安全登山資料等の配布、登山届の記入促進、アンケートの実施、安全登山指導を行いました。

三重県側では1,160名の登山者からアンケートに協力をしていただきました。また、滋賀県側では150名の登山者に、登山計画書の提出促進、啓発チラシとグッ

ズの配布、安全登山指導を行いました。

当日は多くの登山者が来られましたが、天気が良く心にゆとりがあるのか、アンケートや登山指導に協力的な態度が印象的でした。これは警察や消防の方々の参加と三重県山岳遭難防止連絡協議会の腕章、遭難対策委員会のヘルメットなどの効果も大きかったようです。また、四日市西警察署の米田署長も各登山口を回られ、啓発活動、登山者の様子を実際に目で確認されました。これは山岳遭難防止に取り組む意気込みの現れだと思います。

【アンケート結果】

①何県から来たか

愛知県49％、三重県22％、岐阜県8％、大阪府6％、滋賀県4％、京都府3％、静岡県2％、奈良県1％、その他4％

②計画書を自分で持っているか

持っている38％、　持っていない62％

③家族に山に行くことを伝えてあるか

伝えてある90％、伝えていない10％

④山岳会や山登りサークルに所属しているか

所属している25％、所属していない75％

⑤飲み物を持っているか

持っている98％、持っていない2％

⑥カッパは持っているか

持っている84％、持っていない16％

⑦懐中電灯やヘッドランプは持っているか

持っている64％、持っていない36％

⑧登山用地図を自分が持っているか

持っている69％、持っていない31％

⑨携帯電話（無線機）などを持っているか

持っている96％、持っていない4％

⑩登山後、温泉施設を利用するか

利用する57％、利用しない43％

となっており、割合は昨年秋に実施した内容とほぼ同じでした。

要望では、登山道の案内板や目印、登山道の整備、トイレの整備、駐車場スペース等の意見が出ていました。

これらを参考に、鈴鹿山系連絡協議会の参加岳連が今後の安全登山・自然保護活動に取り組んでいきたいと思います。

（記　三重県山岳連盟理事長　門山信男）

平成26年度国際委員総会
第33回海外登山遭難対策研究会の開催

期日　平成26年6月14日（土）～15日（日）
会場　長野県山岳総合センター
　　大町市大町8056-1　☎0261-22-2773
　　http://www.sangakusogocenter.com/
日程　【6月14日（土）】
　　13：30　受付開始
　　14：10　国際委員総会
　　15：30　「世界の山から見たニッポン
　　――未知への飽くなき憧れ」　谷口ケイ
　　16：40　「遠征隊の留守本部の課題」　寺沢玲子
　　【6月15日（日）】
　　8：45　「高所遠征によって得られた順応
　　――SpO2改善効果の持続について」大西宏
　　9：15　「高所登山のための体力・順化トレーニング
　　――日本でできること・現地ですべきこと」
　　山本正嘉
参加費　12,000円（夕食兼懇親会、1泊朝食込）
　　日帰り参加費は、2,000円
　　（但し、学生と10代の若者は500円）
　　懇親会参加費は、3,000円
申込み　日山協事務局
　　FAX：03-3481-2395

「山の日」祝日化へ

8月11日を「山の日」とする「国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律案」が4月25日、衆議院本会議で賛成多数で可決された。本会議では内閣委員会の柴山昌彦委員長が「山の日」祝日法案の内容を説明、内閣委員会での審議経過と賛成多数で可決したことを報告した後、直ちに採決に移り、起立による賛成多数で可決した。

この結果、「山の日」の法案は、参議院に送られ、大型連休明けにも審議が始まる見通しとなった。5月中にも同院で可決、成立することが期待され、法案が成立すれば平成28年1月1日から施行され、8月11日が国民祝日「山の日」となる。

1961年（昭和36年）7月に富山で開催された「夏の立山大集会」登山教室の閉会式で「山の日」制定の提案がなされ、ヘッド・コーチを務めた高橋定昌・日山協専務理事が「これは日本の山岳人の緊急な命題である。この貴重な一石を無にしないよう我々コーチ陣も日本のすべての山岳人にあらゆる組織を通じて呼びかけよう。」と協力を誓ってから、53年の歳月を経て漸く「山の日」が日の目をみることになった。

平成26年度競技部委員総会報告

前週の満開の桜が散らずに残った晴天の中で、平成26年度競技部委員総会が、全国から41都道府県の競技委員と４県の委任届及び２県の欠席により、委員総数過半数以上の出席で総会は成立し、開催された。

議事進行は松田常任委員が執り行った。初めに佐藤副会長が東京国体のお礼と予算に見合う事業の取り組みについて述べ、挨拶した。続いて森下競技部長より日山協とＩＦの関わりについての考えを述べられた。

冒頭、競技運営委員長が千葉岳連・高山雅夫さんから兵庫岳連・西原斗司男さんに交代した旨報告があり、了承された。

議案１　平成25年度競技部事業報告

まず西原競技運営委員長から（１）競技委員総会について例年通り４月第１日曜日に開催したこと、（２）競技部合同会議について、競技運営委員会、技術（審判）委員会、選手強化委員会の３つの合同委員会の会議内容、さらに（３）ブロック別研修会、東京国体開催結果、トレラン小委員会活動状況、ドーピング防止の指導啓発について資料を使い報告、説明した。

次に山本技術（審判）委員長から（４）技術（審判）委員会報告として、Ｃ級ルートセッター及び昇級者、Ｃ級審判員合格者及び昇級者の報告、競技規則の変更について説明がされた。

次に前田全国高体連登山専門部事務局長から（５）高体連登山専門部の選手登録報告についての概略が説明された。

続いて北山選手強化委員長から（６）選手強化委員会報告として、国際大会の成績報告、パラクライミング小委員会の活動についての報告及び和歌山国体ではパラクライミングのデモンストレーションを行いたい旨の説明、選手会の設立についての報告がされた。

再び西原委員長から（７）日本体育協会公認スポーツ指導者（山岳）の養成事業の開催状況について報告がされ、議案１について全会一致で承認された。

次に小野寺常務理事から選手登録のデーターベースの流れについて説明があり、続いてアドバンテストサービスからパワーポイントを使用して詳しく手順の説明があった。寺内常任委員から同県の個人登録者の名前の閲覧をできないかという質問があった。それは不可能という業者からの回答であったが、中川事務局員から事務局で選手の一覧にしたものを作成し、ホームページにアップする旨の説明があった。また、同県で複数人が入力することが可能かという質問に対し、運用の問題なので可能という回答が業者よりあった。ＩＤを発行された者は、個人登録を除く県の登録者一覧を閲覧できるということである。

この後、昼休みを取り、午後は大村市国体推進室の伊藤さん、松崎常任委員から（議案5）長崎国体の準備状況についての説明があった。

場所、アクセス、会場概要、本大会実施要項及び日程、リハーサル大会についてリード競技はリードジャパンカップ、ボルダリング競技はシーハットカップが行われる旨が示された。

議案２　平成26年度競技部事業計画について

西原委員長から①競技委員総会は来年度も４月第一日曜日の予定、②競技運営委委員会は毎月１回開催していくが、そのうちの年間３回については土曜日もしくは日曜日に開催する、③競技会運営事業計画として、ブロック別研修会開催について事前日程調整をし、調整していくという説明があり、承認を得た。

議案３　平成26年度からの国体山岳競技規則の一部改正について山本委員長から説明があった。

議案４　日山協競技運営員の認定、登録について西原委員長から26年度以降は更新制ではなく、５年間のみの有効資格になるという説明があった。

議案６　ＩＦＳＣワールドカップ2014印西大会について北山委員長と目次常任委員から説明があった。

議案７　日本代表選手の選考について北山委員長から説明があった。

議案９　国体ブロック別出場都道府県割り当てについて西原委員長から説明がされた。

議案８　トレイルランニング競技の推進について佐藤副会長、宮地常任委員より説明があった。

以上、議案３から９まですべて承認された。

この後、議案とは別に森下部長から平成26年度競技会運営及び競技力向上事業について、平成26年度特別事業及び平成26年度収支予算と、国体チーフルートセッター選任に関して、国体競技場に設置された競技施設の施工関係者はできないとの規則改正の補強説明がされ、「コンプライアンスの順守」の姿勢を明確にし、国体競技施設の室内設置を検討するとした。また、日山協ワーキンググループ（ＷＧ）の取り組みについての説明がされた。

続いて中川事務局員から日山協ホームページの加盟団体専用ページについての説明がされた。

この後、「特に要望、質問等があれば」ということで発言を求めたところ、ブロック別研修会の日程を本日決めてはどうかという要望があり、総会後にすべてのブロックの研修会日程調整を行い重複することなく、研修可能指定日に１ブロックずつが決定した。

また、選手登録について、上位大会に出場を希望しない選手が県大会に参加した場合、登録については免除してもよいのかという質問があった。これについて西原委員長から、上位大会に出場を希望しない選手についての登録は不要である旨の説明がされた。

また、前田高体連登山専門部事務局長から、来年度の総会から高体連（登山専門部）代表が１名参加する旨の説明がされた。

また、競技会のジャッジについて日山協のユニホームを作れないかという要望が出された。最後に審判研修も受講料が2,000円になるのかとの質問を受け、2,000円の受講料に26年度事業より消費税が加算されることになった、と回答し、平成26年度競技部総会を閉会した。

日山協が公益社団法人へ移行し2年目を迎えた。選手登録も含めて組織の充実に向け行動したい。

出席者　佐藤旺副会長、小野寺斉常務理事、森下健七郎競技部長、京才昭競技部副部長、西原斗司男競技運営委員長、北山真選手強化委員長、山本和幸技術・審判委員長、寺内丈行、太田忠行、松田龍彦、滝内壽一、佐藤豊、篠崎善信、有枝樹雄、原勇人、宮地由文、中村正各常任委員、中川裕事務局員、山納秀俊（北海道）、四戸義継（青森）、佐藤誠（岩手）、児玉隆司（秋田）、斉藤昌之（山形）、三森一男（常任委員兼福島）、堀之内幸子（茨城）、渡邊潤（栃木）、赤松久宇（群馬）、土屋正昭（常任委員兼埼玉）、目次俊雄（常任委員兼千葉）、西嶋久貴（常任委員兼東京）、富田雄也（神奈川）、渡辺真二郎（山）、今井浩二（新潟）、浮須由実（長野）、畑中渉（富山）、上木真吾（福井）、諸戸明（静岡）、佐原晴人（愛知）、戸田大輔（三重）、水口正弘（岐阜）、小林広幸（滋賀）、加藤宗利（京都）、石川順一（大阪）、前田善彦（奈良・全国高体連登山専門部事務局長）、尾崎和彦（和歌山）、山田佳範（鳥取）、大櫃静雄（島根）、神田恭行（岡山）、古林喜明（常任委員兼山口）、椎野彰浩（徳島）、石黒照章（愛媛）、松崎文彦（常任委員兼長崎）、斎藤弘毅（熊本）、瀧石裕一（大分）、下村真一（宮崎）、蛭川信一（鹿児島）

［その他］伊藤千尋（大村市国体推進課山岳競技担任）、山田孝行・　高橋淳子（株式会社アドバンテストメディアサービス）

［委任］石川、香川、高知、福岡、欠席：宮城、沖縄

（文責・滝内壽一）

＜平成26年度競技部ブロック別研修会日程＞

東北ブロック（岩手）	：11月29日㈯～ 30日㈰
四国ブロック（香川）	：12月６日㈯～７日㈰
中国ブロック（鳥取）	：１月10日㈯～ 11日㈰
関東ブロック（埼玉）	：１月17日㈯～ 18日㈰
北信越ブロック（富山）	：２月７日㈯～８日㈰
近畿ブロック（大阪）	：２月14日㈯～ 15日㈰
九州ブロック（大分）	：２月28日㈯～３月１日㈰
北海道ブロック	：３月７日㈯～８日㈰
東海ブロック（三重）	：３月14日㈯～ 15日㈰

中国地区山岳連盟連絡協議会に参加して

副会長　國松嘉仲

去る３月１日（土）から２日（日）の両日、島根県松江市で開催された「中国地区山岳連盟連絡協議会」に、日本山岳協会を代表して参加した。

ご承知のように、島根県は、縁結びの神様として名高い「出雲大社」がある。その出雲大社はいま、60年に一度の「平成の大遷宮」の行事が、平成20年4月から平成28年3月まで続けられている。

そのため、県内のホテルや旅館は平日でも客足が絶えぬくらいの賑わいだそうで、会場となった玉造国際ホテルもこの日は満室で、主管された島根県山岳連盟は、会場確保にずいぶんご苦労されたらしい。

暦の上で３月に入れば、そろそろ大地が暖まり冬眠をしていた虫たちが穴から出てくる頃だが、今年は殊の外春が遠く、当日は底冷えのする日であった。

そのような中、中国地区山岳連盟（協会）の会長、

副会長、理事長のみなさんが、三々五々集まられ、定刻の午後２時から１日目の日程が始まった。

冒頭に、島根県山岳連盟会長の松本実氏から、開会あいさつがあり、引き続き愚生から「日山協の今日的課題と今後の方向」というテーマで、日山協の原点と現点を比較しながら、日山協の課題や問題、今後の取り組みなどについて約50分講話をさせてもらった。

その後、①平成26年度中国地区開催事業と主管県の確認、②平成26年度日山協事業のうち中国地区で開催される「広島山岳平和祭」への協力、③第69回国体中国ブロック大会の運営などについて午後5時30分頃まで協議された。

そして、午後６時30分から懇親会が開かれ、協議会に出席されなかった方も含め、総勢20数名の皆さんが和気あいあいに、「四方山話」が盛り上がり、時間のたつのも忘れて懇談した。

２日目は、中国地区の各岳連（協会）からの報告・依頼事項を中心に話し合われた。

日山協が公益法人になって、名実ともに日本を代表する山岳団体になるために、公益化、多様化、高齢化にどう対処するかが大きな課題になっているが、それを支える中国地区の皆さんにも同じ悩みがある。

とりわけ各岳連（協会）の構成団体数の減少や、クライミングに特化された山岳競技への対応をどうすればよいのか、組織力が弱くなっているところほど、重荷になっていることを実感した。

日山協として、今後これらの課題や問題にどう向き合い、地方岳連（協会）を活性化させる手立てを講じなければならないことを痛感した。

むすびに、中国地区山岳連盟（協会）の皆様に、感謝とお礼を申しあげ、今後益々のご発展を心からご祈念申し上げます。

新刊図書紹介

ヤマケイ文庫『大イワナの滝壺』

白石勝彦　著

1988（昭和63）年に、山と渓谷社より単行本として刊行された白石勝彦の代表作が文庫で復活。40～50cmの大イワナを求めて難渓に入渓した、昭和37年～47年までの昭和源流釣行記。日本アルプス、東北、北海道などの難渓での源流釣行記11本を収録。沢登りルートとしても困難なルートが多く、登山ルポルタージュとしても読める。

A6（文庫）判、並製、320頁、定価910円＋税、2014年４月25日、山と渓谷社刊

JMA 平成26年度４月（26年４月）常務理事会報告

日　時　平成26年４月10日（木）
17時30分～21時
場　所　岸記念体育会館103会議室
出席者　神﨑会長、佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京オ、水島、瀧本各常務理事、中畠監事
委　任　八木原・國松副会長、青木常務理事（常務理事13名中11名出席）

１．専門委員会動静
３月常務理事会以降
（２月27日～４月９日）
［報　告］
⑴指導委員会
３月３日㈫　出席者10名
ア　２月常任委員会議事録確認
イ　２月・３月常務理事会報告
ウ　代表者会議報告
エ　氷雪技術研修会報告
・参加者：研修会４名、Ａ級主任検定員４名、上級指導員１名、講師４名
・合格者：Ａ級主任検定員（西村、丸山、須藤（以上兵庫）、原（徳島））、上級指導員（明上・香川）
オ　ロープ・フォーラム報告
カ　認定申請について
・ＡＣ指導員：久野由博、山田知子、松嶋秀樹、松嶋麻子、厚谷綱良、以上神奈川５名
・ＡＣ上級指導員：八十島悠貴、上坂和久、石綿木綿子、関根嘉克、関根木綿子、以上神奈川５名
キ　氷雪技術研修会について
・４/26～27、富士山
ク　安全登山実践講座・基礎編について
・テキストの完成をもって分科会の解散
ケ　平成26年度指導委員総会について
⑵ジュニア普及委員会
３月４日㈫　出席者４名
ア　ジュニア・普及情報交換会報告について
・参加者20名（役員７名含む）、懇親会15名、宿泊10名
・収支決算報告
・報告原稿確認
イ　「なすかし雪遊び隊2014」について
・活動プログラム、借用施設、派遣講師、応募状況、費用などの確認
・予算案の検討
・再度募集について
⑶国際委員会
３月11日㈫　出席者11名
ア　平成25年度代表者会議報告
イ　運営部会（2/27）報告
ウ　国際交流の派遣報告
・キルギス山岳会・レーニン峰登山：鈴木百合子、大部良輔を派遣（承認）
・イタリア山岳会・トラッドクライミングミート：須田忠明を派遣（承認）
エ　海外登山技術研究会の報告
オ　26年度国際委員総会・33回海外登山遭難対策研究会について
・6/14㈯～15㈰、長野県山岳総合センター
カ　海外からのイベント案内の扱いについて
⑷自然保護委員会
３月18日㈫　出席者13名
ア　２月常任委員会議事録確認
イ　山岳団体自然環境連絡会（2/27）報告

ウ　「山の神の会」（仮称）設立準備会報告
エ　「山と自然の聖地研究会」設立準備会報告
オ　26年度常任委員研修会について
・6/14～15、御岳山ビジターセンター
カ　第38回自然保護委員総会について
・11/22㈯～24㈪、広島市
キ　ニュースレター（季報）の発行について
ク　指導員の手引き及びＰＲカードの発行について
ケ　自然公園指導員功労者表彰の候補者推薦について
・尾形憲治（宮城）を推薦
コ　第３回関東地区自然保護交流会について
・10/18㈯～19㈰、栃木・那須
⑸競技部合同委員会
３月20日㈭　出席者12名
ア　平成26年度競技部総会について
・ブロック別研修会での日山協への要望事項の考え方整理
・国体山岳競技規則改定（案）について
・国体競技運営員の在り方について
イ　競技部会議の在り方について
ウ　３月常務理事会報告（2/27）
エ　ボルダリング・ジャパンカップ2014報告
オ　日本ユース選手権2014について
カ　ＩＦＳＣクライミングＷＣ印西大会実行委員会報告
キ　ソチ冬季五輪報告
ク　審判員・ルートセッター会議報告
⑹ドーピング防止委員会
３月22日㈯　出席者５名
ア　26年度大会NFRについて
・年内（日本選手権大会まで）は中川
・以降は、年末の委員会で決定
イ　ドーピング防止講習会の開催について
・毎年３ブロック位の開催について競技部と協議
⑺ジュニア普及委員会
３月24日㈪　　出席者６名
（ボランティア２名含む）
ア　「なすかし雪遊び隊2014」スタッフ打合せ
・参加者数（17名）、名簿、役割分担、移動方法、活動内容、タイムテーブル、携行品等の確認
・栞、ネームプレート、修了証の作成
・当日までの準備と当日業務の最終確認
⑻遭難対策委員会
４月２日㈬　出席者５名
ア　日中韓技術交流研修会のタイム・スケジュールについて
イ　雪崩アンケートのまとめについて
ウ　総会と常任委員研修会について
エ　古野電気山岳遭難者捜索システムについて
⑼指導委員会
４月７日㈪　出席者９名
ア　３月常任委員会議事録確認
イ　理事会（第４回）報告（3/9）
・ＡＣ指導員：神奈川の５名承認
・ＡＣ上級指導員：神奈川の５名承認
ウ　指導員認定申請について
・ＡＣ指導員：相馬範昭、長沼洋、小川智靖、渡邊良久、工藤嘉高、高見直広、佐々木務、播磨谷俊達、伊藤勝己、根岸美智子、本宮敬士、青山優子、神野恵子、小幡峰夫、小幡美恵子、岡田成治、本林尚久（以上、北海道17名、事前回議で承認済み）
・ＡＣ指導員：竹内廣幸、高間一、蒲京子（以上、大阪３名）
四戸岳也、鎌田芳弘、長畑重弘（以上、岩手３名）
・ＡＣ上級指導員：小関芳、小林広幸（以上、大阪２名）
エ　平成26年度指導者養成講習会（静岡開催）について
オ　氷雪技術研修会（4/26～27、富士山）について
・上級指導員２名、Ａ級主任検定員５名、Ｂ級主任検定員２名、研修会５名
・講師：蛭田、切嶋、永井、野村、鈴木（由）
カ　安全登山実践講座について
・テキスト400部印刷済み
・規約、カリキュラムの検討について
キ　指導員総会について
ク　ＳＣ指導者養成講習会について
・福井、大分、兵庫、岐阜が開催希望
⑽国際委員会
４月８日㈫　出席者11名
ア　第９回山岳スキー日本選手権大会報告
・選手56名、国際委スタッフ７名
イ　国際委員総会・第33回海外登山遭難対策研究会について
・講師：山本正嘉、寺沢玲子
・登山隊報告：ディラン、シスパーレ（谷口ケイ）
ウ　海外登山奨励金の告知宣伝について
エ　ロシア女性クライマーからの女性登山ミーティングについて
⑾選手強化委員会
４月９日㈬　出席者５名
ア　世界ユース選手権大会代表派遣の第１次選考結果について
・男子ジュニア：是永敬一郎（埼玉）、島谷尚季（千葉）
・男子ユースＡ：波田悠貴（埼玉）
・男子ユースＢ：田嶋瑞貴（三重）、加藤悠生（埼玉）
・女子ジュニア：尾上彩（埼玉）
・女子ユースＡ：田嶋あいか（三重）、小武芽生（北海道）

寄贈図書

寄贈本	山と渓谷社	「大イワナの滝壺」白石勝彦 著
雑誌	山と渓谷社	「山と渓谷」No.949 2014 May
	東京新聞	「岳人」No.803 2014 May
会報	日本ヒマラヤ協会	「ヒマラヤ」No.468 2014 SPRING
	群馬県山岳連盟	「山岳ぐんま」第101号
	日本フリークライミング協会	「FREE FAN」2014 spring ＃069
	（公財）京都府体育協会	「京都府体協時報」No.115
	横浜山岳会	「月刊 山」982号 2014年4月
	大阪府山岳連盟	「山岳大阪」200号
	（公財）健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.432 2014.4
	（一社）日本スポーツプレス協会	「AJPS magazine」Vol.31 2014-2015
	（一社）福岡コンベンションセンター	「FCC news」49 SPRING2014
	（公財）大崎企業スポーツ事業研究助成財団	「企業スポーツ」2014春
	山野	「山野　中国戸外」2014.4
	（公財）全日本ボウリング協会	「JBCニュース」第509号
	（公財）埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」2014 Vol.264
	（公財）日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.294
	NPO日本オリンピアンズ協会	「OAJ news」Vol.29
	（公財）日本卓球協会	「JTTA NEWS」2013 No.1-4合併号
	三峰山岳会	「岩つばめ」344号
	（公社）日本山岳会	「JAPANESE ALPINE NEWS」Vol.15　2014
	（独）日本スポーツ振興センター国立登山研修所	「登山研修 Vol 29」
	大阪府立体育館	「季刊 府立体育館」No.108
	（株）スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」4月号
	山梨メープルクラブ	「山に学ぶ」Vol.3
	（公社）日本パワーリフティング協会	「JPA時報」第60号
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第407号
	やまびこ山想会	「やまびこ」第153号
	白河山岳会	「一里瀧」38号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.471 2014.5
	玲峰グループ	「玲峰」グループ創立60周年記念号
	KOREAN ALPINE FEDERATION	「大山聯」2014　4　Vol184
	NPO法人山のECHO	「山のECHO通信」No.35 2014年4月
	NPO法人日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト	「HAT-J NEWS」No.93 2014年4月
	（公社）日本山岳会	「山」No.827 2014年4月号
	（公社）国土緑化推進機構	「ぐりーんもあ」2014 vol65
	岡山県山岳連盟	「岡山岳連」211号
	東京野歩路会	「山嶺」2014 5 Vol191 No.1010
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.653 ’14.5
	日本山岳写真協会ニュース	「日本山岳写真協会ニュース」第410号

・女子ユースＢ：菊沢絢（千葉）、清水夏子（千葉）
以上、10名を第１次選考。今後、リードジャパンカップ（第２次）及びＪＯＣジュニアオリンピックカップ（第３次）で　数名を加える予定。

２．その他の重要事項

（２月28日～４月９日）

［報　告］

⑴JISS-NFドクター協議会
３月１日㈯　於：ベルサール神保町
増山理事

⑵ＩＦＳＣ総会
３月１日㈯～２日㈰　於・パリ
神﨑会長、小日向副委員長

⑶中国地区連絡協議会　３月１日㈯～２日㈰　於：島根・玉造国際ホテル
國松副会長

⑷全国「山の日」制定協議会臨時総会
３月４日㈫　於：弘済会館
神﨑会長、尾形専務理事

⑸ネパール大使懇談会　３月６日㈭
於：ネパール大使公邸
神﨑会長、佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺常務理事

⑹九州ブロック競技研修会　３月８日㈯～９日㈰　於：熊本　寺内、原常任委員

⑺理事会（第４回）
３月９日㈰　於：岸記念体育会館
神﨑会長ほか役員25名

⑻審判員認定特別研修会
３月11日㈫～12日㈬　於：明治大学和泉キャンパス　山本委員長

⑼第14回日本ドラックストアショー
３月14日㈮～16日㈰
於：幕張メッセ　尾形専務理事、小野寺常務理事、松隈事務局員

⑽審判・レートセッター会議
３月15日㈯　於：岸記念体育会館
森下常務理事、山本・北山委員長

⑾東海ブロック競技研修会　３月15日㈯～16日㈰　於:岐阜・長良川スポーツプラザ　滝内、佐原常任委員

⑿ＪＯＣ総務委員会　３月18日㈫
於：岸記念体育会館　尾形専務理事

⒀トレラン連絡協議会　３月18日㈫
於：日本オリエンテーリング協会
小野寺常務理事

⒁ＪＯＣ環境担当者会議　３月19日㈬　於：味の素ナショナルトレーニングセンター　尾形専務理事

⒂内閣府へ平成26年度事業計画及び収支予算書を提出　３月20日㈭

⒃スポーツ安全協会評議員会
３月20日㈭　於：東海大校友会館
神﨑会長

⒄フランス、スポーツ・青少年大臣ヴァレリー・フールネロン氏来日歓迎レセプション
３月20日㈭　於：フランス大使館
神﨑会長、尾形専務理事

⒅参与（前千葉県山岳連盟会長）・宇野仁章氏逝去。享年70歳。３月21日㈮

⒆ユース日本選手権大会　３月22日㈯～23日㈰　於：千葉県印西市・松山下公園総合体育館　神﨑会長、森下常務理事、北山・山本委員長

⒇パキスタン・ナショナルデー・レセプション　３月24日㈪　於：ホテルオークラ東京　尾形専務理事

㉑日体協臨時評議員会　３月26日㈬
於：グランドプリンスホテル新高輪
神﨑会長

㉒第16回秩父宮記念スポーツ医・科学賞表彰式　３月26日㈬　於：グランドプリンスホテル新高輪
神﨑会長、尾形専務理

㉓なすかし雪遊び隊2014　３月26日㈬～27日㈭　於：国立那須甲子青少年自然の家　本木顧問、西内・仙石・青木常務理事

㉔超党派「山の日」制定議員連盟が、「山の日」祝日化法案を衆議院に提出。３月28日㈮

㉕ＵＩＡＡ登山委員会
４月２日㈬～８日㈫　於：シャモニー　青山遭対委副委員長

㉖第９回山岳スキー競技日本選手権
４月５日㈯～６日㈰　於：長野県・栂池高原　神﨑会長、澤田委員長、笹生常任委員ほか

㉗競技部委員総会
４月６日㈰　於：岸記念体育会館
佐藤副会長、森下・京オ・小野寺・水島常務理事、西原・山本・北山委員長

３．議　事

⑴平成25年度３月常務理事会議事録の承認について（承認）

⑵平成25年度理事会（第４回）議事録の承認について（承認）

⑶平成26年度自然公園指導員局長表彰候補者の承認について（承認）

⑷自然保護指導員規程及び自然保護指導員規程取扱細則の改訂について（承認）

⑸平成26年度生涯スポーツ功労者候補の推薦について（事務局一任で承認）

⑹報告事項
ア　会計月次
イ　登録選手規程の改訂案について
ウ　ＩＦＳＣクライミングＷＣ2014印西大会の組織図について
エ　世界ユース選手権大会の代表選手（第１次選考）について
オ　安全登山実践講座テキストについて
カ　平成26年度理事会（第１回）開催通知について
キ　山岳共済会の事故報告について
ク　なすかし雪遊び隊2014の報告
ケ　第９回山岳スキー競技日本選手権大会報告
コ　ＵＩＡＡ登山委員会の日本開催の年度・日程について

4．後援、協賛等の依頼について

⑴第６回ジャパンユースカップの後援名義（ＪＦＡ/日本ユースクライミングを応援する会主催）（事前回議にて承認）

⑵「山の日」をつくろうシンポジウムの後援名義（「山の日」つくろうシンポジウム実行委員会主催（栃木県山岳連盟））（承認）

⑶「『ヒマラヤ・ブータン王国のマサ・コン峰』初登頂報告と福井県のブータン交流を知る」の後援名義（福井県山岳連盟主催）（承認）

⑷第20回クライミング・コンペ・オール神奈川2014の後援名義（神奈川県山岳連盟主催）（承認）

5．報　告

⑴指導員の認定承認
①ＡＣ指導員：　相馬範昭、長沼洋、小川智靖、渡邊良久、工藤嘉高、高見直広、佐々木務、播摩谷俊達、伊藤勝己、根岸美智子、本宮敬士、青山優子、神野恵子、小幡峰夫、小幡美恵子、岡田成治、本林尚久、以上北海道17名（事前回議にて承認）
竹内廣幸、高間一、蒲京子（以上、大阪３名）（承認）

編集後記

４月25日、山に親しみその恩恵に感謝するのが目的で「山の日」制定法案が、衆議院を通過、今国会中に成立する予定。８月11日を「山の日」とする祝日法改正案で、2016年から祝日が１日増える。施行まで約２年、山岳諸団体・関係業者・行政は「登山の楽しさ・自然の大切さ」をアピール、国民参加型のイベントを企画、継続する絶好の機会である。アイデアがあれば日山協事務局までご一報を！

（広報担当　水島彰治）

登山月報　第542号
定　価　110円（送料別）
予約年間　1,300円（送料共）
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
（毎月１回15日発行）
発行日　平成26年５月15日
発行者　東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会
電　話　03－3481－2396
ＦＡＸ　03－3481－2395

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
蛭ヶ岳山荘　TEL:090-2252-3203（衛星電話）
神の川ヒュッテ　TEL:042-787-2276
和田峠「峠の茶屋」　TEL:042-687-2882
理事長・代表　杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
◦ 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
◦ 陣馬山トレイルレース実行委員会
◦ 八重山トレイルレース実行委員会
◦ 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
大会々長　杉本憲昭

詳しくは ➡ http://www.sangakukyousai.com

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金　10：00 ～ 17：00（土・日・祝日除く）

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL：03-5958-3396　FAX：03-5958-3397
E-mail：sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
ＵＲＬ：http://sangakukyousai.com